

常なる磐

つねなる いわ season II

令和 4年 1月28日(金)

その4

◇ 白亜の校舎⑪ 「白亜」を生かすアクセント

「ガッガッガッガッガッ……」完工まで1か月余りとなったこの時期にきて、校舎内にけたたましい^{はさいおん}破砕音が鳴り響く。コンクリート面を専用機械で^{はつ}研る音だ。

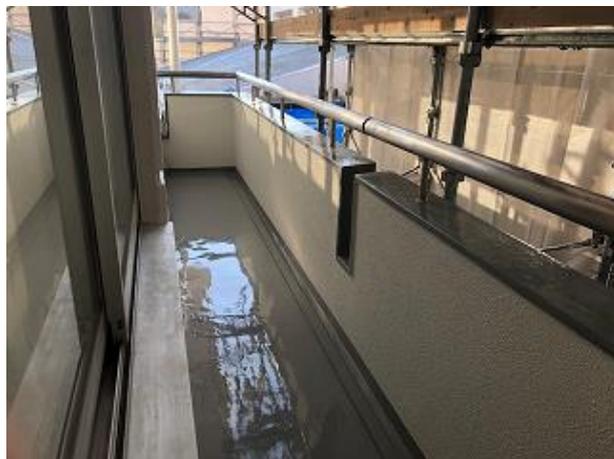
外壁工事で亀裂や破損部分以外に重機を投入して破砕する箇所などないと思っていたが、意外な場所があった。教室窓越しのベランダ床面である。

床面はコンクリートの打ちっぱなしだと思っていたが、実のところそうではない。防水加工が施されている。よくよく考えてみればあたりまえのこと。防水コーティング施行がされていなければ、雨水がコンクリートに侵食し、建物を傷める。

工事は新たなコーティングを施すための「古いコーティングの研り」であった。

新しいコーティングは見た目にもすごさが分かる。おそらく「シリコンコーティング」だろう。表面がぴかぴかと^{いっけん}輝き、一見ただ^{みずはじ}けでも水弾きがよさそうだ。

簡単に言えば、ゴム状のコーティングで建屋を風雨や汚れから守る。以前はコーティングの有無が^{しろもの}確認できないような(記憶に残っていない)代物だった。まさに一新である。



有難いのは、^{てすり}手摺が設置されている「ベランダ壁面上部」や、赤➡で示した「風抜け穴」の表面にも、床面と同様のコーティングが施されている点だ。

色は品のある濃いグレーで、壁面の白亜色とのコントラストがいい。加えて「ふちどり」のようで、壁面を引き締めている。色彩アクセントにもなっており、見事だ。



☞床面が濡れているわけではない。シリコン特有の光沢が確認できる。



灯り取りのガラスブロックも☞新品に交換。



コケだらけだった管理棟(職員室のある棟)の屋根もご覧のとおり。痕跡^{むね}すらない。^{こんせき}防水コーティングが施された状態。屋根の状態は、ちょうどベランダ床と同じ状態で防水コーティングが施された状態。このあとにチョコレート色に塗装し、屋根は完成となる。

このコーティングは非常階段にも施していただけるとのこと。しかもノンスリップ・シリコンコーティング。歩行時(避難時)の安全性も向上できるだろう。

このように、外壁工事は壁面のみならず屋根やベランダ、非常階段、排水経路、ガラスブロックの交換等、様々な箇所^{箇所}に及ぶ。そして、それぞれを専門業者が担い、完成へと進んでいくのである。

さて、完成まであと一步の体育館。

足場が取り除かれた全容については、別号で紹介する。